

研究組織

研究代表者：福和伸夫（名古屋大学大学院環境学研究科都市環境学専攻・教授）

研究分担者：飛田 潤（名古屋大学大学院環境学研究科附属地震火山・防災研究センター・助教授）

中野 優（名古屋大学大学院環境学研究科都市環境学専攻・助手）

飯場正紀（国土交通省国土技術政策総合研究所危機管理技術研究センター・建築災害対策研究官）

護 雅史（清水建設㈱技術研究所・副主任研究員）

宮腰淳一（清水建設㈱技術研究所・副主任研究員）

研究協力者：小島宏章（名古屋大学大学院環境学研究科・大学院生）

所属等は平成 17 年 3 月

研究経費

平成 15 年度 12,900 千円

平成 16 年度 2,200 千円

計 15,100 千円

研究発表

(1) 審査論文等

小島宏章, 福和伸夫, 飛田潤：常時微動計測・強震観測に基づく動的相互作用効果の階数依存性に関する研究—S 造及び SRC 造 10 階建物の建設段階毎の動特性の変化ー, 構造工学論文集, Vol.48B, pp.453-460, 2002.3

小島宏章, 岡田純一, 福和伸夫, 飛田潤：振動実測と解析に基づく S 造及び SRC 造 10 階建て建物の振動特性評価, 第 11 回日本地震工学シンポジウム, 2002.11

N. Fukuwa, J. Tobita and H. Kojima: Seismic Observation Systems in Nagoya University and Publication of Data, 3rd US-Japan Soil Structure Interaction Workshop, Menlo Park, 14p., 2003.3

小島宏章, 飛田潤, 福和伸夫, 中野優：建物強震観測 DB 公開用 web システムの構築, 日本建築学会技術報告集, 第 17 号, pp.553-558, 2003.6

中田信治, 福和伸夫, 西畠尚：実大振動実験と強震観測に基づく低層鉄骨住宅の振幅依存性に関する研究, 日本建築学会構造系論文集, 第 574 号, pp.85-92, 2003.12

H. Kojima, N. Fukuwa, and J. Tobita: Dynamic Response of Low and Medium-rise Building Based on Detailed Observation Considering Soil-Structure Interaction, 13th World Conference on Earthquake Engineering, Vancouver, Paper No. 1243, 9p., 2004.8

N. Fukuwa, J. Tobita and H. Kojima: Proposal of Strategic Seismic Observation of Soil-Structure System and Data Publication through Web, 13th World Conference on Earthquake Engineering, Vancouver, Paper No. 483, 10p., 2004.8

飛田潤, 福和伸夫, 中野優: 地域防災協働態勢を支援するシステムと防災拠点の構築, 日本建築学会技術報告集, 第 20 号, pp.367-370, 2004.12

小島宏章, 福和伸夫, 飛田潤: 強震観測・常時微動計測に基づく中低層建物の入力損失効果に関する研究, 日本建築学会構造系論文集, 第 587 号, pp.77-84, 2005.1

H. Kojima, N. Fukuwa, and J. Tobita: Strategic observation program for dynamic response of buildings, 1st Advances in Experimental Structural Engineering, Nagoya, 8p., 2005.7 (掲載予定)

(2) 口頭発表等

宮腰淳一, 福和伸夫: 構造的な被災度判定基準に基づく被害率曲線の構築, 日本地震工学会年次大会, 2003.11

宮腰淳一, 神原浩, 福和伸夫, 山口司: 構造的な被災度判定基準 基づく被害率曲線, 日本建築学会学術講演梗概集, B-2, 構造 II, pp.25-26, 2003.9

竹生修治, 宮腰淳一, 福和伸夫, 飛田潤: 耐震診断結果に基づく RC 造建築物の地震被害に関する検討, 日本建築学会学術講演梗概集, B-2, 構造 II, pp.39-40, 2003.9

小島宏章, 福和伸夫, 飛田潤: 建設中の高層建物を対象とした強震観測事例, 日本建築学会学術講演梗概集, B-2, 構造 II, pp.951-952, 2003.9

福和伸夫, 小出栄治, 糸魚川貢一: 建物観測用の普及型低コスト地震計の試作, 日本建築学会学術講演梗概集, B-2, 構造 II, pp.871-872, 2003.9

山崎靖典, 福和伸夫, 飛田潤: 高層建物の固有周期と減衰定数の設計値と実測値に関する研究, 日本建築学会学術講演梗概集, B-2, 構造 II, pp.947-948, 2003.9

西畠尚, 福和伸夫, 飛田潤: 鉄骨住宅の固有振動特性に関する研究 その 3 近接固有値による連成うなり振動を考慮した分析, 日本建築学会学術講演梗概集 B-2, 構造 II, pp.931-932, 2004.9

浜田栄太, 小島宏章, 福和伸夫, 飛田潤: 中低層建築物の固有振動数・減衰定数に関するデータベース構築, 日本建築学会学術講演梗概集 B-2, 構造 II, pp.843-844, 2004.9

竹生修治, 白瀬陽一, 宮腰淳一, 福和伸夫, 飛田潤: 既存 RC 造学校建築の耐震性能(その 1:耐震診断結果の分析), 日本建築学会学術講演梗概集 C-1, 構造 III, pp.719-720, 2004.9

白瀬陽一, 竹生修治, 宮腰淳一, 福和伸夫, 飛田潤: 既存 RC 造学校建築の耐震性能(その 2:復元力特性の設定), 日本建築学会学術講演梗概集 C-1, 構造 III, pp.721-722, 2004.9

山崎靖典, 小島宏章, 文学章, 福和伸夫, 飛田潤: 隣接建物の建設に伴う振動特性の変化 (その 1) 既存建物の振動特性の推移, 日本建築学会学術講演梗概集 B-2, pp.639-640, 構造 II, 2004.9

文学章, 小島宏章, 山崎靖典, 福和伸夫, 飛田潤: 隣接建物の建設に伴う振動特性の変化 (その 2) 隣接建物と既存建物の建設段階毎の振動特性の変化, 日本建築学会学術講演梗概集 B-2, 構造 II, pp.641-642, 2004.9

小島宏章, 福和伸夫, 飛田潤: プレキャストプレストレスコンクリート造建物の建設段階に伴う振動特性の変化, 日本建築学会学術講演梗概集 B-2, 構造 II, pp.647-648, 2004.9

飛田潤, 福和伸夫, 中野優: 地域防災協働態勢を支援する防災拠点のためのシステム群, 日本建築学会学術講演梗概集 B-2, 構造 II, pp.1025-2026, 2004.9

西畠尚, 福和伸夫, 飛田潤: 近接固有値による連成うなり振動を考慮した減衰推定法, 建築学会東海支部研究報告集, pp.165-168, 2004.2

小島宏章, 山崎靖典, 浜田栄太, 福和伸夫, 飛田潤: 2004年9月5日紀伊半島南東沖の地震(Mj7.4)における建物応答性状, 建築学会東海支部研究報告集, pp.229-232, 2005.2

山崎靖典, 小島宏章, 浜田栄太, 福和伸夫, 飛田潤: 微動・強風・地震時の建築構造物の振動性状に関する研究, 建築学会東海支部研究報告集, pp.233-236, 2005.2

